

株式会社 松本平タウン情報

本社/〒399-8711  
松本市宮田2-10 信毎ビル内  
編集………☎(0263)28-9080  
広告………☎(0263)28-9490  
(共通)FAX(0263)29-0744  
[www.townjoho.co.jp](http://www.townjoho.co.jp)

[www.townjoho.co.jp](http://www.townjoho.co.jp)

# 松本平 タウン情報

6/26  
(火曜日)

配達 26、27日  
（3回／火・木・土発行）

卷之六

# 塗装で守る 三世代百年の家

プロタイムズ 松本店  
0120-556-029

000120 350 025

# 野焼きの植生 比較調査

神戸大大学院の永田さん 木曽開田高原で研究



春に火入れした1年目の草地(手前)と、昨秋に草を刈った2年目の草地(奥)=5月

開田の伝統的な野焼  
きは2年ごと。春先に

## 開田の草地

多様な生物環境をひもとく

「国内でも開田は生物多様性が高い地域。その中でも伝統的管理地は特に高いと研究者の中でも言われていたが、多様性に関する具体的な研究がなく調査を勧められた」と永田さん。

▽伝統的管理地▽火入れのみ▽草刈りのみ▽管理放棄地――の4種の草地を比較し、植物の種類や数、草丈、土地などを調べる。これまでの調査の結果、永田さんは「伝統的管理によつて、適度な草丈に入れ込み▽草刈りのみされ、多様性が生み出されているのではない」とし、3月の日本生態学会全国大会で発表した。

3年目となる本年度の研究には、同大学院で昆虫が専門の内田圭さん(22)が加わり、チ

ヨウやバッタを調べる。葉を食べるため草地の変化の影響を受けやすいからだ。「管理を変えると動植物のバランスは変わる。今まで保たれてきた生態系のバランスは、その土地の伝統的管理でこそ保たれるのは」と仮説を立てている。

木曾町の開田高原で伝統的な野焼きが行われる草原。希少種のチョウなど多様な動植物が生きる環境という。神戸大大学院・生物多様性研究室の永田優子さん(24)は2年前から植生調査を行い、開田の伝統的草地で生物多様性が維持される仕組みを解きつつしている。

田澤佳子



管理放棄地で調査する永田さん(5月)。10年も手入れしないとススキも衰え森林化するという

ほぼ月に一度行われる水田さんの現地調査は、毎回必ず休ませて、次の春に再び火を入れる。かつて里山の多くは採草地だったが、生活の変化と共に、このよなな草地管理は少なくなった。